四半期報告書

（第50期第３四半期）

自　2021年11月１日
至　2022年１月31日

株式会社ロック・フィールド

神戸市東灘区魚崎浜町15番地２

(E00482)

目　　次

頁

表　紙

第一部　企業情報
　第１　企業の概況
　　１　主要な経営指標等の推移 …… 1
　　２　事業の内容 …… 1
　第２　事業の状況
　　１　事業等のリスク …… 2
　　２　経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 …… 2
　　３　経営上の重要な契約等 …… 4
　第３　提出会社の状況
　　１　株式等の状況
　　(1) 株式の総数等 …… 5
　　(2) 新株予約権等の状況 …… 5
　　(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 …… 5
　　(4) 発行済株式総数、資本金等の推移 …… 5
　　(5) 大株主の状況 …… 5
　　(6) 議決権の状況 …… 6
　　２　役員の状況 …… 6
　第４　経理の状況 …… 7
　　１　四半期連結財務諸表
　　(1) 四半期連結貸借対照表 …… 8
　　(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 10
　　四半期連結損益計算書 …… 10
　　四半期連結包括利益計算書 …… 11
　　２　その他 …… 14
第二部　提出会社の保証会社等の情報 …… 15

［四半期レビュー報告書］

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の４の７第１項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2022年３月10日
【四半期会計期間】	第50期第３四半期（自　2021年11月１日　至　2022年１月31日）
【会社名】	株式会社ロック・フィールド
【英訳名】	ROCK FIELD CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長　　古塚　孝志
【本店の所在の場所】	神戸市東灘区魚崎浜町15番地２
【電話番号】	（代表）（０７８）４３５－２８００
【事務連絡者氏名】	執行役員管理本部本部長　　新部　雅彦
【最寄りの連絡場所】	神戸市東灘区魚崎浜町15番地２
【電話番号】	（代表）（０７８）４３５－２８００
【事務連絡者氏名】	執行役員管理本部本部長　　新部　雅彦
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町２番１号）

第一部【企業情報】

第１【企業の概況】

１【主要な経営指標等の推移】

回次		第49期 第３四半期連結 累計期間	第50期 第３四半期連結 累計期間	第49期
会計期間		自2020年５月１日 至2021年１月31日	自2021年５月１日 至2022年１月31日	自2020年５月１日 至2021年４月30日
売上高	（百万円）	32,934	35,979	43,762
経常利益	（百万円）	1,095	2,042	1,271
親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益	（百万円）	894	1,371	1,165
四半期包括利益又は包括利益	（百万円）	901	1,391	1,227
純資産額	（百万円）	27,862	29,058	28,187
総資産額	（百万円）	34,342	35,274	35,318
１株当たり四半期（当期）純利益	（円）	33.64	51.58	43.84
潜在株式調整後１株当たり四半期（当期）純利益	（円）	―	―	―
自己資本比率	（%）	81.1	82.4	79.8

回次		第49期 第３四半期連結 会計期間	第50期 第３四半期連結 会計期間
会計期間		自2020年11月１日 至2021年１月31日	自2021年11月１日 至2022年１月31日
１株当たり四半期純利益	（円）	23.86	24.16

（注）１．当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

２．潜在株式調整後１株当たり四半期（当期）純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

３．「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号　2020年３月31日）等を第１四半期連結会計期間の期首から適用しており、当第３四半期連結累計期間及び当第３四半期連結会計期間に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

２【事業の内容】

当第３四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第２【事業の状況】

１【事業等のリスク】

当第３四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

２【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。なお、当第３四半期連結累計期間は、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成していないため、キャッシュ・フローの状況に関する記載はしておりません。

（１）経営成績の状況

当第３四半期連結累計期間（2021年５月１日～2022年１月31日）におけるわが国経済は、2021年10月の緊急事態宣言等の全面解除や各種政策の効果などを背景に、景気は持ち直しの動きが見られましたが、１月以降、新型コロナウイルスの変異ウイルス「オミクロン株」への感染拡大により多くの地域でまん延防止等重点措置が実施されるなど、先行き不透明な状況が続いております。

中食・惣菜業界におきましては、テイクアウトやフードデリバリー、オンラインショップ等の需要の定着により業態の垣根を越えた競争が激化し、多様化するニーズに対して柔軟な対応が求められるとともに、原材料や原油等の価格高騰により、厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中、当社グループは「The Mirai Salad Company」として、健康で豊かな食卓提案を通してお客様の豊かなライフスタイルの創造に貢献するために、より高品質で季節感あふれるサラダを一層進化させるとともに、これまで培ってきた調理技術を活かした料理・冷凍食品の強化に取り組んでまいりました。また、会員サイト「ロック・フィールドメンバーズ」においては、ＷＥＢ予約商品の拡充やオンラインショップの利便性の向上によって、クリスマス・年末年始商品の予約・購入が伸びた結果、会員数は約28,000名と前年同時期と比べて２倍以上に増加いたしました。

併せて、2021年10月、神戸ヘッドオフィス／ファクトリーで使用するガスをカーボンニュートラルＬＮＧに、玉川ファクトリーで使用する電力を再生可能エネルギー等に由来する環境対応型電力に切り替えるなど、エネルギーの脱炭素化をはじめとする持続可能な社会の実現に向けた取り組みを推進いたしました。

ブランド別の売上は次のとおりであります。

ブランド		2021年４月期 第３四半期（連結）		2022年４月期 第３四半期（連結）		対前期比
		売上	構成比	売上	構成比	
		百万円	%	百万円	%	%
ＲＦ１	サラダ	11,447	34.8	12,533	34.8	109.5
	フライ	4,044	12.3	4,063	11.3	100.5
	その他そうざい	5,311	16.1	5,888	16.4	110.9
	小計	20,802	63.2	22,485	62.5	108.1
グリーン・グルメ		6,258	19.0	7,018	19.5	112.1
いとはん		2,304	7.0	2,464	6.8	106.9
神戸コロッケ		1,790	5.4	1,888	5.2	105.5
融合		664	2.0	740	2.1	111.5
ベジテリア		588	1.8	557	1.6	94.6
その他		525	1.6	825	2.3	156.9
合計		32,934	100.0	35,979	100.0	109.2

主なブランド別の概況は次のとおりであります。

「ＲＦ１」ブランドにおきましては、クリスマス・年末年始に「食卓に、言葉を飾ろう。」をテーマに、特別なひと時を大切な人と分かちあう時間を提供するためのサラダや料理・オードブルなどの提案を行いました。また、新たな取り組みとして、「カラダにうれしい選択。」をテーマに、「ハーブ香る　ケールと『豆乳フロマージュ風』のサラダ」や「ピーナツ豆腐の揚げ出しフリット」など、植物由来の素材を使ったメニューの提案を行い、売上高は22,485百万円（前年同期比8.1%増）となりました。

「グリーン・グルメ」ブランドにおきましては、セレクトショップとして「ＲＦ１」ブランドのサラダを中心とした品揃えに、「いとはん」ブランド、「融合」ブランドのサラダ・料理の販売強化を行うとともに、新年を健康的にスタートしていただきたい思いを込めて「年始め、サラダでリセット生活リズム。」をテーマに、「足りないカラダに　緑の30品目サラダ」など野菜をしっかり摂れる商品の提案を行い、売上高は7,018百万円（前年同期比12.1%増）となりました。

「いとはん」ブランドにおきましては、「きょう、旬ごはんしよう。」をテーマに、二十四節気に合わせて旬の素材を活かした和さらだや料理を提案するとともに、「迎春　いとはんの三段寿セット」や「新年彩る　和の酒肴贅宝セット」など、和と洋の組み合わせで新年の食卓を彩る迎春特別商品の提案を行い、売上高は2,464百万円（前年同期比6.9%増）となりました。

「神戸コロッケ」ブランドにおきましては、「境港水揚げ　紅ずわい蟹のクリームコロッケ」など製法と素材にこだわる定番商品の販売強化を行うとともに、クリスマスには、「トリュフ香る　牛タンシチューコロッケ」や「とろーりチーズのトマトリゾットコロッケ」など、食卓に華やかさを添えるコロッケを提案し、売上高は1,888百万円（前年同期比5.5%増）となりました。

「融合」ブランドにおきましては、「温めて香るスパイスで　あったか気分」をテーマに、もっとも寒さを感じる季節に身体を労わるメニューとして、八角や桂皮などが香る「黒酢だれで味わう鶏団子と春雨の白湯仕立て」や身体がじんわり温まる「カレイの中華風生姜あんかけ」の提案を行い、売上高は740百万円（前年同期比11.5%増）となりました。

「ベジテリア」ブランドにおきましては、「きれいなカラダ、飲む野菜。」のブランドメッセージのもと、寒くなる季節に向けて、「ココロもみずみずしく」「カラダにご褒美30品目」などのひと言を添えたジュースや、魚介の旨みと野菜の甘みを凝縮したスープの提案を行いましたが、売上高は557百万円（前年同期比5.4%減）となりました。

以上の結果、当社グループの当第３四半期連結累計期間の売上高は35,979百万円（前年同期比9.2%増）、営業利益は2,015百万円（前年同期比115.9%増）、経常利益は2,042百万円（前年同期比86.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,371百万円（前年同期比53.3%増）となりました。

なお、当社グループはそうざい事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

（２）財政状態の状況

当第３四半期連結会計期間末の資産合計は前連結会計年度末と比べて44百万円減少し、35,274百万円となりました。これは主に、現金及び預金の増加291百万円、売掛金の増加467百万円、有形固定資産の減少472百万円等によるものであります。

負債合計は前連結会計年度末と比べて914百万円減少し、6,215百万円となりました。これは主に、買掛金の減少245百万円、賞与引当金の減少258百万円、長期借入金の減少405百万円等によるものであります。

純資産合計は前連結会計年度末と比べて870百万円増加し、29,058百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加1,371百万円、配当金の支払による利益剰余金の減少531百万円等によるものであります。

以上の結果、自己資本比率は82.4％、１株当たり純資産額は1,092円85銭となりました。

（３）会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

（４）経営方針・経営戦略等

当第３四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

（５）優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第３四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

（６）研究開発活動

当第３四半期連結累計期間における当社グループの研究開発活動の金額は107百万円であります。なお、当第３四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

（７）経営成績に重要な影響を与える要因

当第３四半期連結累計期間において、新たに経営成績に重要な影響を与える事象は発生しておりません。

（８）資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループは、主に百貨店との売上に関する契約等に基づき安定的に売上金の回収を行っております。また、直営店におきましては現金販売が中心となっているため、早期にキャッシュの回収を行うことができ、それにより仕入及び人件費の支払に関する運転資金は売上金の回収から得られたキャッシュから支出可能な状況にあります。

３【経営上の重要な契約等】

当第３四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第３【提出会社の状況】

１【株式等の状況】

（１）【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	60,000,000
計	60,000,000

②【発行済株式】

種類	第３四半期会計期間末現在発行数（株）（2022年１月31日）	提出日現在発行数（株）（2022年３月10日）	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	26,788,748	26,788,748	東京証券取引所市場第一部	単元株式数100株
計	26,788,748	26,788,748	－	－

（２）【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

（３）【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

（４）【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数（株）	発行済株式総数残高（株）	資本金増減額（百万円）	資本金残高（百万円）	資本準備金増減額（百万円）	資本準備金残高（百万円）
2021年11月１日～2022年１月31日	－	26,788,748	－	5,544	－	5,861

（５）【大株主の状況】

当四半期会計期間は第３四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

（６）【議決権の状況】

当第３四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2021年10月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

①【発行済株式】

2022年１月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	－	－	－
議決権制限株式（自己株式等）	－	－	－
議決権制限株式（その他）	－	－	－
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式　198,800	－	－
完全議決権株式（その他）	普通株式　26,575,700	265,757	－
単元未満株式	普通株式　14,248	－	１単元（100株）未満の株式
発行済株式総数	26,788,748	－	－
総株主の議決権	－	265,757	－

（注）１．「完全議決権株式（その他）」の「株式数」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が2,400株含まれております。また、「議決権の数」の欄には、当該株式に係る議決権の数24個が含まれております。

２．「単元未満株式」の「株式数」の欄には、自己株式19株が含まれております。

②【自己株式等】

2022年１月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
（自己保有株式） 株式会社 ロック・フィールド	神戸市東灘区魚崎浜町15番地２	198,800	－	198,800	0.74
計	－	198,800	－	198,800	0.74

２【役員の状況】

該当事項はありません。

第４【経理の状況】

１．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

２．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の２第１項の規定に基づき、第３四半期連結会計期間（2021年11月１日から2022年１月31日まで）及び第３四半期連結累計期間（2021年５月１日から2022年１月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

（1）【四半期連結貸借対照表】

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （2021年４月30日）	当第３四半期連結会計期間 （2022年１月31日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,418	13,709
売掛金	3,506	3,973
製品	58	52
仕掛品	108	98
原材料及び貯蔵品	571	505
その他	443	217
貸倒引当金	△4	△4
流動資産合計	18,103	18,552
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	9,959	9,673
土地	2,948	2,948
その他（純額）	2,549	2,362
有形固定資産合計	15,457	14,984
無形固定資産		
その他	168	235
無形固定資産合計	168	235
投資その他の資産		
その他	1,612	1,524
貸倒引当金	△23	△23
投資その他の資産合計	1,589	1,501
固定資産合計	17,214	16,721
資産合計	35,318	35,274
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,091	846
１年内返済予定の長期借入金	540	540
未払法人税等	479	397
賞与引当金	635	376
その他	2,405	2,491
流動負債合計	5,152	4,652
固定負債		
長期借入金	1,580	1,175
その他	397	387
固定負債合計	1,977	1,562
負債合計	7,130	6,215

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （2021年４月30日）	当第３四半期連結会計期間 （2022年１月31日）
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,544	5,544
資本剰余金	5,874	5,878
利益剰余金	16,840	17,679
自己株式	△190	△183
株主資本合計	28,068	28,918
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	62	76
為替換算調整勘定	56	63
その他の包括利益累計額合計	119	140
純資産合計	28,187	29,058
負債純資産合計	35,318	35,274

（２）【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第３四半期連結累計期間】

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　2020年５月１日 至　2021年１月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2021年５月１日 至　2022年１月31日）
売上高	32,934	35,979
売上原価	13,782	15,042
売上総利益	19,151	20,936
販売費及び一般管理費	18,218	18,921
営業利益	933	2,015
営業外収益		
受取配当金	8	9
保険配当金	15	11
雇用調整助成金	127	－
その他	24	18
営業外収益合計	175	38
営業外費用		
支払利息	8	6
為替差損	1	1
固定資産売却損	2	－
解約違約金	－	1
その他	2	1
営業外費用合計	13	11
経常利益	1,095	2,042
特別利益		
補助金収入	※ 169	－
特別利益合計	169	－
特別損失		
減損損失	23	－
特別損失合計	23	－
税金等調整前四半期純利益	1,240	2,042
法人税等	346	670
四半期純利益	894	1,371
非支配株主に帰属する四半期純利益	－	－
親会社株主に帰属する四半期純利益	894	1,371

【四半期連結包括利益計算書】

【第３四半期連結累計期間】

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　2020年５月１日 至　2021年１月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2021年５月１日 至　2022年１月31日）
四半期純利益	894	1,371
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1	13
為替換算調整勘定	4	7
その他の包括利益合計	6	20
四半期包括利益	901	1,391
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	901	1,391
非支配株主に係る四半期包括利益	－	－

【注記事項】

（会計方針の変更）

（収益認識に関する会計基準等の適用）

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号　2020年３月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を第１四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財またはサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財またはサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、従来販売費及び一般管理費として計上しておりました他社ポイント負担金については、売上高から減額する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、第１四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に与える影響はありません。

また、当第３四半期連結累計期間の売上高、販売費及び一般管理費についてはそれぞれ16百万円減少しておりますが、営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純利益への影響はありません。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号　2020年３月31日）第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第３四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

（時価の算定に関する会計基準等の適用）

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号　2019年７月４日。以下「時価算定会計基準」という。）等を第１四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号　2019年７月４日）第44-２項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

（追加情報）

（新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積り）

前連結会計年度の有価証券報告書「注記事項（重要な会計上の見積り）」に記載した新型コロナウイルス感染症拡大の影響による会計上の見積りに用いた仮定について重要な変更はありません。

（四半期連結損益計算書関係）

※　補助金収入

前第３四半期連結累計期間（自　2020年５月１日　至　2021年１月31日）

補助金収入は「二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金」の交付を受けたものであります。

当第３四半期連結累計期間（自　2021年５月１日　至　2022年１月31日）

該当事項はありません。

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係）

当第３四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第３四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第３四半期連結累計期間 （自　2020年５月１日 至　2021年１月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2021年５月１日 至　2022年１月31日）
減価償却費	1,266百万円	1,249百万円

（株主資本等関係）

Ⅰ　前第３四半期連結累計期間（自　2020年５月１日　至　2021年１月31日）

配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額（百万円）	１株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年７月29日定時株主総会	普通株式	611	23	2020年４月30日	2020年７月30日	利益剰余金
2020年12月９日取締役会	普通株式	239	9	2020年10月31日	2021年１月20日	利益剰余金

Ⅱ　当第３四半期連結累計期間（自　2021年５月１日　至　2022年１月31日）

配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額（百万円）	１株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年７月28日定時株主総会	普通株式	292	11	2021年４月30日	2021年７月29日	利益剰余金
2021年12月３日取締役会	普通株式	239	9	2021年10月31日	2022年１月19日	利益剰余金

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

前第３四半期連結累計期間（自　2020年５月１日　至　2021年１月31日）及び当第３四半期連結累計期間（自　2021年５月１日　至　2022年１月31日）

当社グループは、そうざい事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

（収益認識関係）

当社グループはそうざい事業の単一セグメントであるため、顧客との契約から生じる収益（全て一時点で移転される財又はサービス）の分解情報については、以下のとおりブランド別に記載しております。

当第３四半期連結累計期間（自　2021年５月１日　至　2022年１月31日）

（単位：百万円）

	ブランド別売上高							合計
	ＲＦ１	グリーン・グルメ	いとはん	神戸コロッケ	融合	ベジテリア	その他	
顧客との契約から生じる収益	22,485	7,018	2,464	1,888	740	557	825	35,979

（１株当たり情報）

１株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第３四半期連結累計期間 （自　2020年５月１日 至　2021年１月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2021年５月１日 至　2022年１月31日）
１株当たり四半期純利益	33円64銭	51円58銭
（算定上の基礎）		
親会社株主に帰属する四半期純利益（百万円）	894	1,371
普通株主に帰属しない金額（百万円）	－	－
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益（百万円）	894	1,371
普通株式の期中平均株式数（株）	26,580,043	26,587,138

（注）潜在株式調整後１株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

２【その他】

2021年12月３日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

（イ）配当金の総額……239百万円

（ロ）１株当たりの金額……９円00銭

（ハ）支払請求の効力発生日及び支払開始日……2022年１月19日

（注）2021年10月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行っております。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年３月３日

株式会社ロック・フィールド

取締役会　御中

有限責任監査法人トーマツ
神戸事務所

指定有限責任社員
業務執行社員　公認会計士　伊東　昌一

指定有限責任社員
業務執行社員　公認会計士　福井　さわ子

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ロック・フィールドの2021年５月１日から2022年４月30日までの連結会計年度の第３四半期連結会計期間（2021年11月１日から2022年１月31日まで）及び第３四半期連結累計期間（2021年５月１日から2022年１月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ロック・フィールド及び連結子会社の2022年１月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第３四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以　上

（注）　1．上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2．XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。